



令和3年度 第5号
 明倫小学校校長室だより
 R3.8.30 (発行者 千田)

一学期の終業式で、夏休み中の宿題として「8月30日、校長先生より黒くなって笑顔で登校するように」と子どもたちに伝えました。しかし、夏休み初旬より新型コロナ第5波が到来し、外出を控える子が多くいたと思います。また本日より二学期がスタートしますが、新型コロナの感染に不安を抱える子どもも多くいると思います。学校としては感染対策を強化するとともに、一人一人の不安な気持ちにしっかりと寄り添っていきたくと思います。

二学期の始業式で子どもたちに伝えたことは、一学期に引き続き「3つのあ」です。

3つのあ
 あいさつ
 ありがとう
 あきらめない

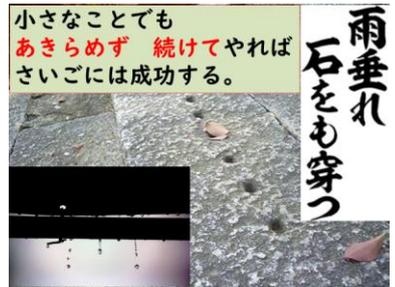
あいさつについては、『あいさつは 人より早く 元気よく』
 『あいさつは いつでも どこでも 誰にでも』をモットーに、職員で力を合わせて頑張っていきたいと思ひます。

ありがとうについては、6月の全校集会で「ほほえみの国 タイ」を例にあげ、みんなが笑顔でいるためにはどうしたらいいか私の考えていることを話しました。『ありがとうと言える人 ありがとうと言われる人になろう』をモットーに、ありがとうの聲がとびかう笑顔あふれる学校になるのが私の願ひです。二学期には、人権週間があり様々な取り組みが実施されます。人の心の痛みの分かる思いやりのある子どもを育てていきたいと思ひます。

あきらめないについては、本日の始業式で東京オリンピックで活躍した上野由岐子選手や藤井聡太棋士の幼少の頃の様子を例に挙げ、
 『あきらめず、コツコツ頑張ることの大切さ』
 『夢をもち、必死に頑張ることの大切さ』
 について話しました。



最近、何かあるとすぐに諦める大人が増えていると言われています。その原因として、子どものころの環境が影響している場合があります。少子化の影響もあり、何でも親が決めて干渉しすぎたり、子どもを甘やかして過保護に育てると、打たれ弱い子になってしまいます。逆に子どものころから諦めない心を育てれば、自立した忍耐力のある大人になると言われています。子育てで、一番教えるのが難しいのが「忍耐力」だそうです。



家庭で諦めない心が育つ3つのコツが書かれていましたので紹介します。

- (1) 簡単にやめさせない
- (2) 失敗の原因を「親と一緒に」考える
- (3) ときには厳しく叱る

二学期の学校生活では、日々の授業で学力の定着を図るとともに、3つの「あ」を中心に人間力の育成を図り、将来自分の足でしっかり立つことができる子を育成していきたいと考えています。二学期もどうぞよろしくお願いいたします。

9月	7日 (火) 三方小との合同学習 (1年、2年、5年)
	8日 (水) 三方小との合同学習 (3年、4年)
	10日 (金) 登校指導
	20日 (月) 敬老の日
	23日 (木) 秋分の日



不登校 0 を目指して

9月は、1年の中で、不登校の児童・生徒の出現率が1番高い月です。

長い夏休みが終わり、もうすぐ学校が始まる。もともと学校に行きたくない思いがある子は、すっかり家でのんびりすることに慣れてしまい、夏休みの終わりにその気持ちが顕在化してくるのです。今年の場合は、コロナの感染を心配して学校へ行きたがらないケースもあるかもしれません。

不登校のサインとして、以下のものあげられます。

- ① 朝、起きられない。
- ② 朝、頭痛や腹痛が起こる。
- ③ 家庭での会話や笑顔が少なくなる。



一学期(70日間)は、
明倫小36名欠席なしでした。
とても素晴らしいことだと思います。
※出席停止の子は2名いました。

職員みんなで子どもの変化に目配りし、保護者の皆さんと協力して、不登校 0 を目指して頑張りたいと思います。些細なことでも、子どもの変化に気づかれましたら学校にお知らせ下さい。

年度末日程の変更について

7月20日に第1回の明倫小学校閉校記念事業実行委員会が開催されました。閉校イベント委員会、記念誌編纂委員会、DVD編集委員会の三つの委員会に分かれて活動がスタートしました。第1回の委員会において、3月27日(日)に閉校イベントを開催することに決定しましたが、その後学校と教育委員会で協議し、学校の年度末の日程を変更し、3月20日に閉校イベント開催の提案をしました。提案内容と理由は以下の通りです。

[変更前]

3月16日 卒業式
3月24日 修了式・閉校式
3月27日 閉校イベント



[変更後]

3月16日 卒業式
3月18日 修了式
3月20日 閉校式・閉校イベント
3月22日 振替(3/20)

変更後も授業日数は
197日あり、学習指
導要領が定める標準
時数は確保されてい
ます。

[変更の理由]

- ・閉校イベントは、卒業生も在校生とともに活動してもらうので、卒業式から閉校イベントまでの日数を短くし、卒業生の負担を軽減するため。
- ・閉校イベント後に、職員で備品、掲示物、緒帳簿の整理・整頓を行うが、とても労力を要する作業になるのでその日数を確保するため。
- ・閉校イベントを授業日として位置づけるため。

第2回の実行委員会でこの提案が了承されました。また委員の皆様のご要望により、閉校式と閉校イベントが同日開催となりました。これからも閉校に向け、地域や保護者の皆様には大変お世話になるとは思いますがどうかよろしくお願いいたします。

閉校まで残り7ヶ月、「有終の美」を飾ることができるよう、みんなで力を合わせ頑張っていきたいと思っております。

